

R 4 デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証結果

事業名 (R4年度実績額) (交付金の種類) (計画期間)	重要業績評価指標 (KPI)				令和4年度の取組内容	効果検証結果	
	指標	R4目標値	R4実績値	達成度		事業効果及びその判断理由	今後の方針及びその判断理由
モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクト (SUWAモノ・ヒトプロジェクト) (6,020,000円) (地方創生推進タイプ) (R2~4年度)	NPO諏訪圏ものづくり推進機構を介したビジネスマッチング件数	75 件	83 件	110.7%	1. SUWAブランドの普及・高付加価値化事業 ・地域商社機能の運用開始 ・市場を理解し売れるものづくり手法や効果的なホームページ作成方法、航空・医療・環境等成長産業参入、技術力を活かした製品開発等を学ぶ稼働力の向上のための人材育成：勉強会等の開催 ・国外を含めた地域内外への受注獲得支援や展示・商談会の開催等によるビジネスマッチング支援 ・SUWAブランド（小型ロケット製作を通じて得られた技術等を含む）の知名度向上に向けた総合発信拠点の仕組み作り ・地域内の大学・高校等と連携した域内企業等の情報発信 ・関東経済産業局等と連携し、航空・医療・環境等成長産業等に関するシーズ・ニーズマッチングを実施 2. 関係人口の創出ともものづくり人材の育成・確保事業 ・若年層向けのキャリア育成プログラム及び教材等の開発、実施（広域的なものづくり機会・学習機会の創出） ・大学等と連携した地域内企業へのインターンシッププログラムの実施 ・県内大学生等の小型ロケット製作等への参加による諏訪圏企業のPR及び就職の場の提供 ・諏訪圏外在住者の小型ロケット製作等への参加 ・小型ロケット製作等による技術力向上、新素材の加工技術、IoTの基盤となる通信技術・計測制御技術、ビッグデータ活用技術の習得等を通じた提案型技術者の育成 ・関係人口等の創出に向けた若年層等を対象としたロケットに関するイベントの実施 等	【外部検証前 担当課判断】 ③地方創生に効果があった ↓ 【外部検証委員会判断】 ③地方創生に効果があった ↓ 【担当課最終判断】 ③地方創生に効果があった ◎外部検証委員からの意見等（要約・抜粋） ・ロケットというのは夢があって子どもたちの関心を高める内容だと思う。若い技術者のなかでも提案型技術者の育成がたいが図れてきているということはよいことだと思った。 ・ロケットを飛ばすというのは非常に難しいことであるということでは理解できるが、人材確保を目的とするのであれば、若干訴求力が足りないように思う。そのあたりが伝われば諏訪の企業に魅力を感じる方も増えると思う。 ・新卒の地域内企業への就職者数は令和2年度から増加しているものの、これはコロナ禍において県外に出るという意識を持ちにくかったことが要因ではないかと思う。今度は再び都心に回帰することが考えられるのでしっかりと計画に基づいた戦略が必要なのではないかと思う。 ◎担当課最終判断理由 ・諏訪圏の素晴らしい技術を持っている複数の企業と連携して最先端の完成品（ロケット）を作製することで、諏訪圏の技術力を広くPRすることができた。これを契機に他地域との受注開拓といった新たな販路につながることを期待している。 ・数字としては見えにくい部分ではあるが、小中学校でのモデルロケットの製作や打ち上げ等を通じて、ものづくりの楽しさや宇宙工学への興味・関心が醸成していると考えている。	【外部検証前 担当課判断】 ⑤予定通り事業終了 ↓ 【外部検証委員会判断】 ⑤予定通り事業終了 ↓ 【担当課最終判断】 ⑤予定通り事業終了 ◎外部検証委員からの意見等（要約・抜粋） ・事業終了とあるが、ロケット制作を経験した技術者をうまく繋ぎとめて次なる企業の技術向上に役立ててもらうことを希望する。 ・就職を考えるなかで諏訪地域の魅力をわかってもらえるようなアプローチができたらよいと思う。 ・小中学生が、参加するなかで興味を持った部分を継続してけるように次に繋がるようなアプローチを期待する。 ・市外の高校に通う諏訪市在住の子どもたちへのアプローチも高校生生の頃から行ってほしいと思う。 ・諏訪市に限らず広域的に人を育てて地域の学校と連携しながら、子どもたちが技術に触れる機会を増やしてほしい。 ・工業ももちろんであるが、諏訪地域には商業関係の事業者も多いので、そちらの方にもDXを導入していくことを考えていってほしい。 ◎担当課最終判断理由 ・若年層のものづくりに対する関心、ひいては諏訪地域への関心醸成を図り、地域内企業への就職を促進することを目的に事業を実施してきた。小型ロケット製作を通じた提案型技術者の育成では、個別技術の高度化による技術力の向上が図られた。今後は、習得した技術力を応用した新たな製品開発や販路拡大につなげる営業力に期待したい。 ・今後の事業展開においては、各自治体で実施している事業を有機的に連携させ、販路開拓支援、シーズ・ニーズマッチング支援、魅力創出・発信を通じ、若年層を呼び込んでまいりたい。
目指す将来像	若年層を対象とした事業の参加人数	800 人	565 人	70.6%			
地域の強みである製造業の持続的な発展を維持するため、技術力・応用力の向上、地域全体のブランド価値の向上によりものづくり人材を惹きつける力をつける必要があり、「SUWA独自のキャリア・サイクルモデル」を構築することで、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む経済好循環の確立を図る。	新卒・第2新卒者（UIJターン含む）等の地域内企業への就職者	75 人	159 人	212.0%			
構造的な課題	租付加価値額	2,343 億円	※R6確定予定	-			
少子高齢化・若年層の都市部への流出に伴い、企業の人材確保が困難であり、企業の成長停滞などにつながっている。 経済産業省が実施したアンケート調査によると、機械工学における技術者不足が予想されており、大手企業を含めた若年層系人材の取り合いが激化し、地方都市でより一層人材確保が困難になる可能性がある。	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響	小中学生等を対象としたモデルロケットワークショップについては、感染症対策を講じることにより、例年に比べて参加人数を大幅に伸ばすことができた。小中学生へのものづくりの楽しさを伝えながら次世代の人材を育成することは、非常に重要である。諏訪圏域の企業への就職を視野に入れたキャリアデザインが描けるような取り組みが必要。 また、トヨタの「新技術・新工法展示商談会」については、3年ぶりの対面による開催となった。現地で実際に商談を行える強みは大きく、ビジネスマッチング数も増加した。継続の商談もあるため、今後の成約件数が増えることを期待したい。感染症の影響により、Webを通じた商談もおこなっているが、WEB・対面それぞれのメリットを生かした営業活動が重要であり、企業のデジタル化といった時代に即した対応求められる。 技能資格取得者を増やし提案型人材の育成していくため、一般的なテキストや映像だけでは理解しにくい製造工程やポイントをアニメーション化したわかりやすい教材を作成した。コロナ禍で対面型の研修が減る中、確かな技術を確実に継承するよう積極的な活用につなげる。 コロナにより新たな課題が顕在化された部分もあり、各企業の自己革新力が一層求められる。行政としてのサポートも重要となると考えられる。					

事業名 (R4年度実績額) (交付金の種類) (計画期間)	重要業績評価指標 (KPI)				令和4年度の諏訪市の取組内容	効果検証結果	
	指標	R4目標値	R4実績値	達成度		事業効果及びその判断理由	今後の方針及びその判断理由
「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の魅力向上・発信プロジェクト (事業主体：長野県) (906,542円) (地方創生推進タイプ) (R3~5年度)	諏訪地域観光消費額	39,844 百万円	32,582 百万円	81.8%	○諏訪湖をテーマにした講演会開催等（生涯学習課） 諏訪湖の生きものや生態系など、諏訪湖の魅力などに関する講演会を計画し、著書『わけあって絶滅しました。』の図鑑制作者 丸山貴史氏を講師に諏訪市文化センターにおいて、諏訪湖に生息する生物や諏訪湖にも絶滅危惧種がいるのかなど諏訪湖の生態系についてお話をいただいた。 当日は、講師の著書から興味を持った親子から諏訪湖の生物等に関して関心のある年配者まで幅広い年齢層の約150名の方が聴講者に訪れた。 ○諏訪湖環境保全事業（環境課） ・上川アレチウリ駆除作業 平成26年度より毎年ボランティアを募集し、上川右岸橋下で実施している。作業に参加していただくことで、アレチウリ駆除の重要性を啓発し、自然環境保全への意識醸成を図る。 【令和4年度実績】 実施日：R4.6.18 参加者：23人 駆除量：160kg ・諏訪湖ヒシ除去作業（トヨタソーシャルフェス） 平成21年度より毎年ボランティアを募集し、新川河口付近を中心に実施しており、平成25年度からは信濃毎日新聞社と共催で「アクアソーシャルフェス（H30よりトヨタソーシャルフェス）」として、学習会とヒシ除去作業の複合イベントとして開催している。また、除去したヒシは堆肥化している。 【令和4年度実績】 実施日：R4.7.2 参加者：100人 除去量：760kg ・諏訪湖浮遊ごみ除去作業 平成26年度より諏訪市セーリング協会の協力のもと、毎年実施している。令和4年度は新たな取組として、一般ボランティアを募集し、カヤックに乗ってごみを回収するというアクティビティ要素を付加した作業とした。 【令和4年度実績】 実施日：R4.10.16 参加者：43人 除去量：45kg	【外部検証前 担当課判断】 ②地方創生に相当程度効果があった ↓ 【外部検証委員会判断】 ②地方創生に相当程度効果があった ↓ 【担当課最終判断】 ②地方創生に相当程度効果があった ◎外部検証委員からの意見等（要約・抜粋） ・交付金を活用するにしても無駄があってもいけないので、このような良い事業があっても知ることができないのはもったいないと思う。 ・事業効果についての判断理由には「多くの方にきていただいた」とあるが、何に対する効果なのか、実施した事業に対しての問題や課題、今後そこどうアプローチするかという振り返りをしてほしい。 ◎担当課最終判断理由 （生涯学習課） 今回の講演会は、諏訪湖に生息していたスワモロコの絶滅を通して、諏訪湖の水質汚染について説明し、小中学校の児童生徒を中心に諏訪湖への関心を持ってもらうきっかけづくりとして一定の効果があったと考えている。次年度では、幅広い層の関心を高めるとともに、知識を深めていただく機会を提供するため、聴講形式にこだわらず、博物館の展示及び教育普及活動を通じたアプローチとして継続したい。 （環境課） ・ヒシ除去作業においては、市内から23人、市外からは77人の参加があり、市外77人のうち諏訪圏外からの参加が55人と多く、地域外から人を呼び込む作業イベントとなった。 ・浮遊ごみ除去作業においては、市内から39人、市外から4人の参加があり、市内在住者が中心のイベントとなっているが、参加者属性を見ると親子での参加が多く、7組15人であった。アクティビティ要素を付加することにより子どもたちの参加も増え、諏訪湖に関心を持ってもらう機会を提供する場となった。参加者からも「諏訪湖の現状を知ることができた」、「以前よりきれいになった諏訪湖を実感した」という感想を聞くことができた。	
目指す将来像	諏訪湖創生推進拠点ホームページへのアクセス件数（累計）	1 万件	0.5423 万件	54.2%			
「諏訪湖創生ビジョン（2018年に長野県が策定）」が掲げる20年後の目標「人と生き物が共存し、誰もが訪れたい諏訪湖」の実現と、諏訪湖を中心としたSDGsの具現化を目指し、諏訪湖の魅力を引き上げ、積極的に活かしながら、広く内外に情報発信していくことで諏訪地域のブランド力を向上させ、諏訪湖を活かした観光振興を図る。	諏訪湖に関するイベント等（セミナー、アクティビティ体験等）の開催回数（回/年）	26 回	24 回	92.3%			
構造的な課題	※県主体の事業であるため、上記KPIは諏訪市単独の数値ではなく、諏訪地域全体を対象とした数値。	諏訪湖に関するイベント等（セミナー、アクティビティ体験等）の参加人数（人/年）	3,000 人	8,998 人			299.9%
・諏訪湖を目的とした観光の日帰りから滞在型観光への転換。 ・面的な諏訪湖の観光情報の発信や観光誘客を図るビジターセンター的な拠点がいないこと。 ・集中的・継続的な研究のための一元的なデータ活用等。 ・水質改善により諏訪湖に対する関心や諏訪湖に触れ合う機会が低下しており、シビックプライドを持つ住民の養成が必要。	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響	○諏訪湖をテーマにした講演会開催等（生涯学習課） 開催にあたっては、開催時期、開催方法（定員の削減や感染症対策等）、リモートでの開催等、感染状況を考慮したため講演会の開催の決定に時間がかかってしまい、事前のPRにかかる時間が十分とることができなかった。また、開催時期を変更したことにより、当初予定していた講師と日程調整が整わず、別の講師に変更して事業を組み替える等、企画段階での調整に時間を要した。 当日は、検温、手指消毒や座席を一席空けにするなど、感染対策を講じた上で行ったため、参加者に混乱はなく無事実施できた。 ○諏訪湖環境保全事業（環境課） 令和3年度は事業の大幅な規模縮小を余儀なくされたが、令和4年度は一般ボランティアを募集し参加いただくなど、コロナ禍前の水準で実施できた。 【参考 令和元年度（コロナ禍前）】 ・上川アレチウリ駆除 参加者：49人 駆除量：110kg ・諏訪湖ヒシ除去 参加者：150人 ※台風接近により作業中止、学習会のみ ・諏訪湖浮遊ごみ除去 参加者：27人 除去量：113kg					